



単元のめあて

- 作品の特徴や作者の思いをとらえ、自分の感じたことが伝わるように朗読することができるようにする。
- 場面についての描写をとらえ、作品の中で使われている表現を味わいながら、優れた叙述について自分の考えをまとめることができるようにする。

学習の流れ ※赤字 タブレット活用時間

- ①これまでの音読・朗読の学習を振り返ったり、朗読CDを聞いたりして、学習の見通しをもつ。
- ②「やまなし」と「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について自分なりの考えをもつ。
- ③「やまなし」全文を音読し、作品構成を理解し、読みの視点を考える。
- ④「やまなし」の二つの場面を、視点にそって比較しながら読む。
- ⑤「やまなし」を読み、作者独特の表現や心ひかれる言葉や表現を見付け、朗読で表現する。
- ⑥作者がなぜ「やまなし」という題名にしたのかを考える。
- ⑦朗読したい場面を選び、自分の感じたことが伝わるように工夫して朗読する。
- ⑧朗読発表会を行い、聞き合った感想をお互いに伝え合い、考えを深める。

☆タブレット活用☆

- 一人一台のタブレットで、自分の朗読を録音し、客観的に聞いて、より自分の思う朗読ができるように練習する。
- 二人一台のタブレットで、朗読を録音し合う。
- 友達の朗読を聞いて、それぞれの思いが伝わるかどうかを相互評価する。
- 友達の朗読の工夫点について確かめ合う。

☆タブレット活用のメリット☆

- 一人一台で録音し、自己評価をするため、自分の朗読に向き合い、表現について工夫していくことができる。
- 普段は、皆の前で読みにくい児童にとっても、録音によってその力が表現されやすい。
- 友達との相互評価においても、朗読にしっかりと集中して評価され、普段は評価されにくい児童のものも光が当たる。

- 作品から感じ取った思いが朗読によりはっきりと反映され、また聞き手にも理解されやすい。